

## **みらかホールディングス株式会社 2019 年 3 月期 上期決算説明会 主な質疑応答**

[日 時] 2018 年 11 月 1 日 (木) 16 : 45~17 : 45

Q-1

■ 通期計画を修正しない理由は。

A-1

- 売上面では、CLT 事業において想定を上回る価格下落があり、これを主要因として上期は計画未達となったが、開業医および院内事業の顧客数やテスト数量は伸長している。
- 利益面では、上期には一過性費用であるその他費用（約 13.2 億円、スライド#6）が利益を押し下げたものの、下期には発生しない見込みであること、また、全社的に取り組んでいる業務効率改善施策の効果や人員数の減少によるコスト削減が下期から発現し、収益性が改善することを想定している。
- これらが通期業績に及ぼす影響を見極めてから判断を行いたい。

Q-2

■ 1Q のカンファレンスコールでは、2Q 以降業績は回復していくとのことだったが、逆に悪化している理由は。

A-2

- 病院経営が厳しさを増す中、値下げ要求が強まっており、顧客全体に占める病院顧客の割合が大きい当社は、この影響が想定以上であった。
- これらの価格下落による影響や新規顧客獲得に対する投資などの複合的な要素によって結果的に 1Q よりも業績が悪化している。
- なお、病院との契約更改は 9 割以上が終了したため、通期で下落が続くとは考えておらず、通期の価格下落の影響も 3% 台になると見通している。

Q-3

■ テスト数は伸びているが、価格下落影響が大きくなったことにより、CLT の通期計画達成は難しいのではないか。

A-3

- A-2 に記載の通り、通期の価格下落の影響も 3% 台になると想定している。
- 下期以降はこの価格下落幅を基準として、新たに獲得した顧客からの売上が計上されるので、非常に厳しいものの、通期計画の達成に向けて引き続き取り組んでいく。

Q-4

- 価格下落は来期以降どのような見通しか、その対策は。

A-4

- 来年は消費増税、その翌年に再び診療報酬の改定があり、厳しい状況が続くものと考えている。
- これらに対応するために、業務効率改善によるコスト削減、検査の自動化などを推進し、新セントラルラボの稼働を待たずに、価格下落インパクトを吸収できる体制を整えていく。

Q-5

- 労務費・人員数の現状及び今後の見通しは。

A-5

- 依然として従業員数は多い状態と考えている。
- 業務効率改善の取り組みを通じて業務の工数を絞り込んだうえで、退職者補充を行わないことにより、引き続き人員数の削減を進める。

Q-6

- 昨年度上期に発表した建物に関する減価償却費 17 億円と賃借料 21 億円との差額の理由は。また新ラボの減価償却費や賃借料はいつから発生するか。

A-6

- 今回の賃借料の対象は建物だけでなく土地も対象であり、固都税や火災保険も含まれている。
- 減価償却費及び賃借料は、原則新セントラルラボ稼働時（2021 年度初頭）から発生する見込み。

Q-7

- 新セントラルラボについて、59 億円のコスト増を上回るコスト削減効果を実現するには、検査数量増も必要と理解しているが、どのように達成するのか。

A-7

- 新セントラルラボでは、現八王子ラボへ搬入されている地域よりも広い範囲（関東全域）の検体を集約して検査を行う。これに加え、現在取り組んでいる開業医市場のシェア向上や健診事業の伸長により、十分な検体量が確保できると試算している。

Q-8

- 中国平安保険グループとの JV について新聞に記事が掲載された。この背景について教えてほしい。

A-8

- 平安好医とは、2017 年 4 月のプレスリリースの通り、協議を進めてきたものであり、その結果として合併会社の設立について合意に至ったものである。

- 先方との合弁契約等はすでに締結済みである。現在、政府機関からの会社設立に係る認可を待っている状態であり、年内には会社を設立できると見込んでいる。